

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

2021/1/22

りそなホールディングス 市場企画部

○概況

- ◆ 今回の理事会は、金融政策の据え置きを決定。
- ◆ 声明文では、PEPP購入枠について全額を使い切る必要はないとしつつ、金融状況次第では増加も減少もあり得るとした。
- ◆ ラガルド総裁の記者会見では、ユーロ圏の経済が2番底に向かっていると発言。

✓ 1月21日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置いた。**また、12月会合で追加の緩和対応がなされた**パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)** 及び**TLTRO-III（条件付き長期リファイナンスオペ）**についても今回会合では規模や期間の見直しはなかった。

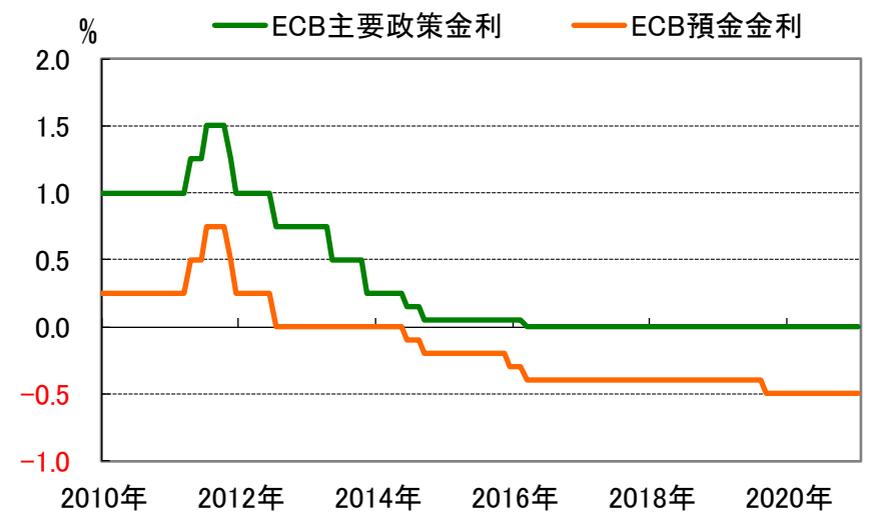
✓ またフォワードガイダンス（将来の金融政策方針）については、「**インフレ目標の実現がしっかりと見通せるまで**」を据え置き。

✓ 声明文でPEPPについて、**良好な金融環境が続けば、PEPPの購入枠を全額使い切る必要はない**、と記載された。一方で、金融環境次第ではPEPPについて増加も減少もあり得るとし、柔軟性を強調したが、ややタカ派的な印象を与え、欧州各国の国債利回りは上昇した。特にPEPPの恩恵を受けやすいイタリア国債の利回りは他の欧州各国に比べより上昇した。

✓ ラガルド総裁は理事会後の会見で、ユーロ圏の経済は新型コロナウイルスの再拡大による各国の行動制限の影響などを背景に、2020年10-12月期はおそらく縮小したとし、**ユーロ圏が景気の2番底に向かっている**と発言。足元でユーロ高傾向は落ち着きつつあるものの依然として高い水準を維持しているが、**総裁は中期的なインフレ目標への影響を与えることから、引き続きユーロの動向には注視している**、とし前回会合同様ユーロ高けん制の動きは限定的だった。

✓ 今回の会合では、目新しい材料はなく、株式や為替市場への影響は限定的であった。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（12月時点）】

	2020年	2021年	2022年	2023年
実質GDP成長率	▲7.3	+3.9	+4.2	+2.1
9月時点の見通し	▲8.0	+5.0	+3.2	
HICP(消費者物価)	+0.2	+1.0	+1.1	+1.4
9月時点の見通し	+0.3	+1.0	+1.3	

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。